

令和7年度学校評価報告書

令和8年3月18日

北海道教育委員会教育長 様

北海道悪計翔洋高等学校長 山 本 十 三

次のとおり令和 年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

<p>北海道厚岸翔洋高等学校の生徒として自覚と誇りを持ち、未来に翔く人の育成を目指し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学びの目的を理解し、学びの喜びを実感できる人を育む ○ 課題を発見し、自ら進んで解決に取り組む人を育む ○ 自他の違いを尊重し、多様な他者と協働することができる人を育む ○ 心身ともに健康で、持続可能な地域社会の創り手となる人を育む

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程	8つの資質・能力の育成のため、総合的な探究の時間などを通して、地域と連携した教育活動に取り組むとともに、地元理解を深め、地域社会の創り手となる人材の育成に努めた。	自己評価は概ね適切である。資質・能力の着実な育成に向けて特色ある教育課程を編成している。地域社会と連携した「見える形」の教育活動を推進して欲しい。
改善方策	コミュニティスクールにより引き続き、地域と一体となった教育活動の充実を図る。	保護者や地域の教育活動を公開し、社会に開かれた学校の実現に努める。
学習指導	主体的・対話的で深い学びを実現するため、生徒理解に努めて一人一人に適した個別指導に重点を置くとともに、グループ学習や体験的な学習を積極的に行い、指導方法の工夫・改善が行われた。	自己評価は概ね適切である。先生方が熱心に指導しており、学びの成果を実感させる指導が行われている。引き続き、生徒の主体的・対話的な深い学びのために学習指導を進めてほしい。
改善方策	学びの成果を意識した教育活動を推進するとともにICTを活用した授業・実習の充実をはかる。	ICTを活用した授業や実習を通して個別最適な学習指導の一層の充実と主体的・対話的な深い学びのために学習指導の充実を図る。
生徒指導	生徒会や学年団中心に、いじめの未然防止や多様性を尊重し、自他の違いを認め合う態度の育成に努めており、学校全体として非常に落ち着いた学校生活を送ることができた。校則については身だしなみ検討委員会において、検討を重ね一部校則を見直した。	自己評価は概ね適切である。いじめの未然防止や早期発見・解決に努めており、適切な対応、取組が行われている。さらなる教育相談の充実を図ってほしい。また、多様性を尊重しあう態度の育成を図ってほしい。
改善方策	いじめを未然防止のための教育相談体制の充実を図る。	外部講師によるいじめ防止の講話の企画やより一層の教育相談体制の充実を図る。
進路指導	インターンシップや外部講師による進路ガイダンスを充実させ、3年間を見通した進路指導が行われた。	難易度の高い公立の大学に進学する生徒も出てきており、先生方の努力が結果として表れてきている。
改善方策	地域と連携した企業説明会等を実施し、生徒の進路意識を早い時期から高める。	生徒の進路意識の醸成につとめるため、早期の進路ガイダンスの充実を図る。
PTA活動	学校祭や体育大会におけるPTA活動を通して、保護者等の積極的な参加により、充実した活動を行うことができた。	学校と家庭が一体となって生徒を育成するために、参加しやすいPTA活動を目指してほしい。
改善方策	広報活動を充実し、参加しやすいPTA活動に向けて情報発信に努める。	日頃から学校と家庭が連携を密にとり、PTA活動に気軽に参加しやすい雰囲気の醸成を図る。
公表方法	学校ホームページ等で公表する。	